

庄内協同ファームだより

No.149 2014年1月号



発行/
〒999-7631 山形県鶴岡市八色木字西野338
tel.0235-78-2120 fax.0235-78-2140
http://www.shonaifarm.com



庄内の正月料理

新年明けましておめでとございませう。今年には25周年の記念した事業が計画されていて今から準備が進められています。25年といっても農事組合として法人化してのことでは実際はその15年前からの準備時代があったのを知る組合員、職員は少ないと思う。思い出せば、当時減反政策に揺れた世の中で、農業青年だった私たちに既存のルートが農協しかなかった時代、手探りで始めた産直はなかなか地域の中で

は理解されず苦しい時代もあった。

減反反対の勉強会を積み重ね、都会の生協の方々とながら、産直のルートが出来上がっていったことが今の庄内協同ファームを作った。

その減反政策もTPPの地ならしとして見直されるという。米の価格を維持するための減反政策から米価格を下げるために米農家の規模拡大を進め、海外の米輸入を拡大する方向に大きく踏み込もうとしている。この方向は以前からのものより一層強まっていく。

今では、農協でも産直をするようになり、あんなに反対していた減反政策が見直されるという事態に時代が私たちに追いついて、また、あの頃のような時代の分岐点に立たされているのだ。

これまでの減反政策のもとでも専業農家は一向に増えることなく農業に依存する事がない経営を作ることによって何とか生きていた農家が実は一番の輸入農産物価格に対抗できる層になっているのかもしれない。しかし高齢化と人口減少、すずめの涙の年金、家族の介護を抱えての農家の暮らしはまさに過酷である。

新年を迎え何ほどの希望的観測と儀礼的謝辞でも思ってもなかなか現実が厳しいのである。そんな中にあっても庄内協同ファームは進んで行かなければならない。25年経っても状況はさらに険しさを増している。

新年を迎えるに当たり組合員、職員共に決意を新たにし頑張っていきたい。

佐藤 清夫

新年のごあいさつ



代表理事

小野寺 喜作

新年を迎える事ができること多くの皆様方のお陰と感謝申し上げます。

また、今年も皆様益々のご多幸と、ご繁栄をお祈り申し上げます。

昨年も異常気象の中、農産物の生産に携わる私達にとっては、大変な年でした。春先の降雪、低

温、降雨で春作業はなかなか進まず、例年より遅れての田植えとなりました。その後、幸いにも晴天の温かい日が続き、稲の方は順調に生育しました。田植え後は晴れっぱなしの日が続き枝豆の定植は苦労しました。6月下旬からは大雨の連続で今度は土が乾かずせっかく定植した枝豆は生育が停滞し、前半の収穫量はそこそこでしたが後半は収穫量が落ちました。稲の方は暑すぎる夏で高温障害が心配されましたが、9月に入り夜の気温が低くなり生育が回復し台風の影響も少なく収穫量は例年より若干良くなりました。「つや姫」をはじめとするうるち米は全量1等で粒張・整粒とも良く高品質に仕上がりました。もち米も同様に品質が良く「美味しいおもち」に仕上がっていますので是非ご賞味下さい。

今年も有機栽培の面積を増やし環境に優しい農業をして皆様に安心して食べて頂ける農産物の生産に励みますのでよろしくお願い致します。

2年以上経過したにも関わらず東日本大震災による

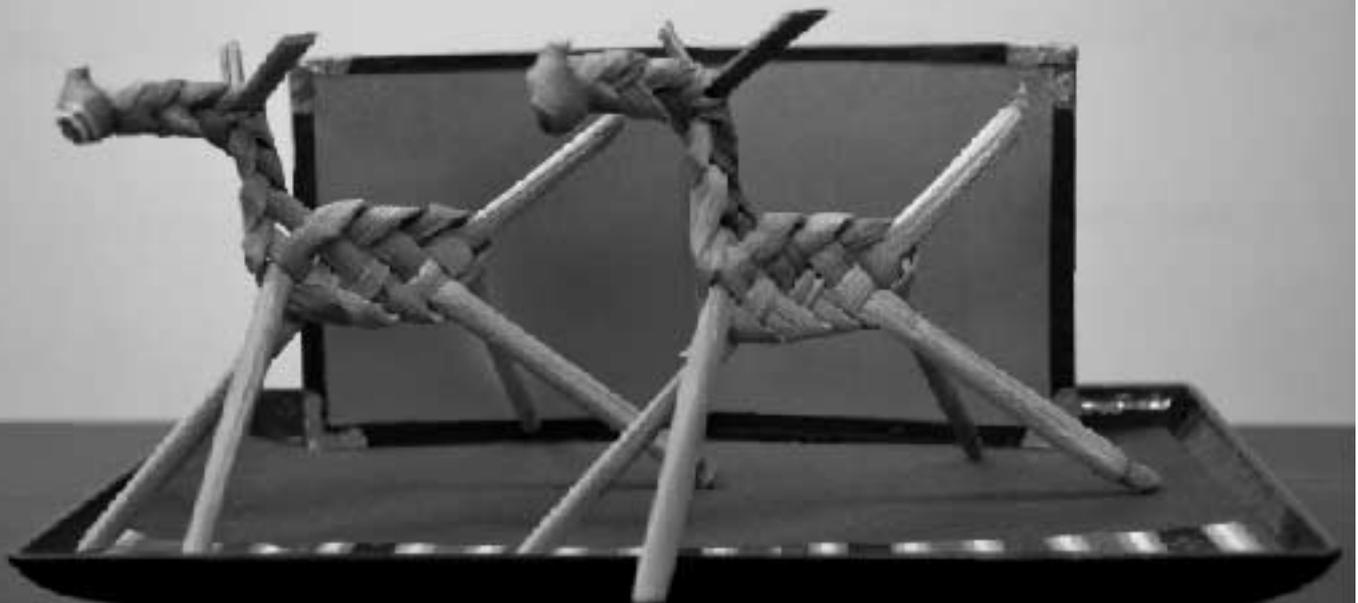
福島原発事故は未だに大きな影響を及ぼしています。昨年の1月に福島県本宮市にある浪江町の仮設住宅に於いて餅つき交流をさせて頂きました。仮設住宅に住んでいる人達からは「自分たちだけが取り残されているようで不安だ」と話されていたのが印象的で復興には長い時間が掛かると感じております。また昨年7月には福島の子供達を中心に97名の人たちが庄内浜を訪れ海水浴や交流会などを一緒にさせて頂きました。今年も1月に去年と同様に餅つき交流を計画しております。一日でも早い復興を願うものです。

今年米をめぐる情勢が大きく変わる事が予想されます。4月からは消費税がアップしますし、TPP交渉で日本は農産物重要5品目を死守すると言っているものの予断を許しません。5年後に減反政策が無くなると言われているにも関わらず、去年の豊作と消費の減退から今年は減反が強化されそうです。更には秘密保護法など国民に十分な説明がないままに政策が成立していき、今後不安な先行きの見通せない状況ではありますが、その中で庄内協同ファームとしては自分たちのできる事を一つ一つ精一杯実行するしかないのではないかと考えています。

今年農事組合法人設立25年の節目の年となり6月には記念事業を計画しております。

昨年の総会で後継者2名が新組合員として加入し現在42名になり世代交代が進みつつあります。産直の原点である「顔の見える関係」を大切に、お互いの生活環境が真に良くなるように共に協力し良き年になる事を願うものです。

今年もよろしく願いいたします。



今年がウマくいきますように願いを込めて・・・

商品紹介

バリバリの自然児
しらやましこく
白山紫黒

私は真っ黒いコメを栽培しています。白山紫黒という商品名で販売しています。始めて見る人は「ゴマですか？」と聞いてくる人が多いのですが、その度に「これは紫黒米というお米で、白米にちよつと混ぜて炊くだけで赤飯のような色になりますよ。味もよくなりますし、健康にも良いですよ。」と説明しておりました。

しかし健康に関することは、ネットや本の受け売りでした。正直なところ、私自身食べ始める前から健康だった為実際にどのような効果があるかは判然としなかったのです。ところがある日、農業仲間が「これ食べ始めてからずつと体の調子良いなや。」と教えてくれて、それからは自信を持つておすすめできるようにになりました。去年までは有機質の肥料を使っていましたが、今年は野山の野草のような力を持った作物にしたいという思いから有機肥料も使わない無肥料栽培にしました。収穫量は少なかったのですが、食べてみると「濃いつ！」と感じました。今までも中



実がギョツと凝縮された力強い味と香りです。
生産者 富樫俊悦

風は追い風
いぶしたくあん
紅花たくあん



私達は5名のメンバーで活動しております。製造しているのはいぶしたくあんと紅花たくあんの2種類です。いぶしたくあんは、干し大根を桜の木で一昼夜燻製してから天塩と洗双糖で糠漬けにします。

紅花たくあんは、色付けに県産の紅花を用いて糠漬けにします。

今年は11月から12月にかけて雨の日が多く、大根が乾かず大変苦労しました。風が吹かなければ、それも大根が揺れるほどの風が吹かなければ、色白の美しい干し大根にはならないのです。「ビュービュー」と音立てて風が吹く朝は嬉しくて飛び起きてしまいます。「いい風だのお」夫も空を見上げて自然に感謝せずにいられない様子です。

義母達のグループから受け継いだ味と技術を変えることなく、素朴な味を出せるようにこれからも努力していきたいと思っています。庄内の風を感じながらご賞味いただければ幸いです。

生産者 五十嵐ひろ子

法人設立25周年記念事業開催に向けて 五十嵐 良一

第25回通常総会(8月8日開催)に於いて、法人設立25周年(庄内農民レポートのグループ結成40周年)の節目に記念事業開催について決定されました。現在、実行委員会を設置し準備進行中です。

これまで法人として四半世紀、グループとして40年もの長い間私達の活動、事業を支えて頂いた大勢の皆様感謝すると共に、これからの活動への新たな展望を見だし、次世代へつなげる事が出来る意義ある交流会にしたいものと思っています。

期日は平成26年6月27日(金)28日(土)の両日。場所は東京第一ホテル鶴岡(JR鶴岡駅近く)。27日は佐高信氏の講演会、法人活動報告、交流会。28日は生産者圃場の見学と庄内の名所旧跡探訪を計画しています。

又、記念誌発行の計画に際し励ましと心暖まる文をお寄せ

頂きました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。



立ち上げ当初の初期メンバー

1月 餅つき交流会



浪江町の方達ともちつき



子ども達ともちつき

福島



慣れた手さばき



初の庄内風雑煮

宮城



一緒に作りました



お餅をほおばり皆笑顔

2月 生産者集会



より良いファームになる為に



柏淵先生の講演

5月 田植え交流会



おいしいお米ができますように



田植えって楽しい

庄内協同ファーム 写真で見る 2013年

7月 庄内浜ツアー



久しぶりの海に大はしゃぎ



メロンもスイカもおいしいね

8月 韓国訪問団、アジア学院



韓国訪問団来庄



アジア学院研修

9月 稲刈り交流会



庄内おばことにっこり



初めての稲刈り

10・11月 各種生協まつり



餅つきの音に盛り上がる



深まる絆

2013年の世相を表す漢字は、「輪」ということです。
2020年東京オリンピック(五輪)まであと7年。オリンピックに向けて色々なことが準備されていく中で、日本の多方面での技術革新が目まぐるしく進歩していくんだろっとなあと想像するだけでワクワクしてきます。

近未来的なオリンピックから機械的、無機的なイメージを連想される中、「おもてなし」という昔ながら日本人が使っている言葉を世界中に発信したことにより、オリンピック開催地を招致できたのは、世界中の人々も「優しさ、気遣い」といったものに飢えているのかなとも思えました。

アスリートの方にとっては、まだ7年もあるのか、それとももう7年しかないのかな、どちらを思っているのかはわかりませんが、日本での晴れ舞台で、強豪国から「倍返し」で金メダルを勝ち取ってもらって、我々を「じえいじえい」と驚かしてほしいものです。

(丹)

あ
と
が
き

